



横浜の環境

平成23年版 横浜市環境管理計画年次報告書

本編





平成23年4月に、横浜の環境行政の基軸となる3つの計画、新たな「横浜市環境管理計画」、「ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）」、「横浜市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」を発表しました。平成23年度を新たな環境行政のスタートとして、取組を進めています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、広範な地域に甚大な被害を及ぼし、また、福島第一原子力発電所の事故による電力不足、放射線問題は、今なお経済活動のみならず、市民生活についても大きな影響を及ぼしています。

電力不足対策として市民や企業の皆様と一丸となって取り組んだ節電やピークカットの取組にはじまり、下水汚泥焼却灰の処理問題、公園などでの放射線やマイクロスポット問題などについては、市民の皆様も大変御心配されていることと思います。今後も日々の暮らしの安全・安心確保に向けた対策を進めていきます。

また、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の開催から1年を機に、「生物多様性自治体ネットワーク」が平成23年10月に設立されました。このネットワークは、様々な生き物を育む自然を守るために、全国110以上の地方自治体が知恵を共有し、地域での生物多様性保全の取組を推進していくものです。

横浜市は、このネットワークの副代表となりました。自治体の取組を先導していく立場として、「ヨコハマbプラン」に基づく取組を全国に発信していかなければなりません。

横浜市の誇る「市民力」によって、生き物の重要な生息地である樹林地や農地を安定して保全していくとともに、節電やエネルギー利用に配慮したライフスタイルを取り入れていただくことで、自然環境と地域の文化などの関わりを大切にする「横浜型エコスタイル」が市民の皆様の中に定着していくことを願っています。

本書は、「横浜市環境管理計画」の年次報告書として、幅広い環境に関する取組をとりまとめたものです。一人でも多くの方にお読みいただき、かけがえのない横浜の環境を未来へつないでいけるよう、市民や企業の皆様と一緒に、実現に向けた取組を進めていきたいと思っております。御協力お願い申し上げます。

横浜市長 林 文子

本書について	4
--------------	---

はじめに

■ 新たな「横浜市環境管理計画」について	6
■ 東日本大震災への対応について（平成 23 年 12 月現在）.....	10

第 1 章 総合的な視点による基本政策

■ 環境と人・地域社会	
～横浜型のエコスタイルを実践する人と環境とのきずなが生み出す地域の活力～	16
(1) 人と環境とのきずなづくり	17
(2) 企業の環境行動	17
(3) 環境活動のネットワークづくり	18
(4) 「学び」の輪づくり	19
(コラム) 横浜の保育所から環境行動を発信～よこはまエコ保育所～.....	20
(5) 横浜市役所環境行動宣言による取組の推進	20
(コラム) 横浜市役所の環境会計の取組	20
(コラム) 横浜市役所の環境マネジメントシステム	21
■ 環境と経済	
～環境分野をツール・フィールドとした新たな展開による、市内経済の活性化と地域のにぎわいづくり～	22
(1) 環境分野における需要の創出を通じたビジネスチャンスの拡大.....	23
(2) 低炭素社会に向けた市内企業の技術革新（イノベーション）推進	23
(3) 地域資源を活かしたシティプロモーションの展開	24
(コラム) 横浜環境ビジネスネットワーク	24
(4) 環境ビジネスの海外での戦略的な展開	25
(5) 新興国等での都市開発に合わせた環境対策の支援	25
■ 環境とまちづくり ～環境と調和・共生した魅力あるまちづくり～	26
(1) 都心部におけるエコまちづくりの推進	27
(2) コンパクトで活力ある郊外部のまちづくり	27
(コラム) 「エキサイトよこはま 22」	27
(3) まちづくりと連携した海づくり	28
(4) 誰もが移動しやすく人と環境に優しい交通体系の形成	28
(5) 環境に配慮した建築物の普及	29
(コラム) コミュニティサイクル社会実験	29
(6) 多様なニーズに対応できる快適な公園の整備	30
(7) 安心して生活するための下水道・河川の浸水対策	30
(コラム) 脱温暖化モデル住宅推進事業	30
(コラム) 新しい横浜市の環境アセスメント制度始まる！	31

第 2 章 環境側面からの基本施策

■ 地球温暖化対策 ～化石燃料に過度に依存しないライフスタイルへの転換～	32
(1) 横浜スマートシティプロジェクトの推進	33
(2) 横浜グリーンバレーの推進.....	33
(3) 再生可能エネルギーへの普及拡大.....	34
(4) 電気自動車（EV）の普及拡大	35
(5) 低炭素型交通の推進	35
(6) 温室効果ガス削減に有効な制度や仕組みの構築	36
(7) 市民のライフスタイル変革に向けた「エコ活。」普及	37
(8) 市役所の CO ₂ 削減	37
(コラム) 「環境未来都市」に選定されました！	37
(コラム) 地球温暖化対策実行計画の達成に向けて	37

■ 生物多様性 ～身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし～	38
(1) b- プロモーション	39
(コラム) 「生物多様性横浜行動計画 (ヨコハマ b プラン)」を策定しました	39
(2) 鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク	39
(3) 谷戸環境の保全と活用	41
(4) つながりの森	41
(コラム) 市民参加による田んぼの生きもの調査	41
(5) まちづくりと連携した海づくり	42
(6) 都心部などでの生物多様性の創造	42
(7) 生物多様性を守り、豊かにするための仕組みづくり	42
(8) 動物園での環境教育と希少野生動物の保護・繁殖	42
(9) 外来生物の対策	42
■ 水とみどり ～自然の恵みを楽しむことができる環境の保全・再生・創造～	44
(1) 樹林地を守る	46
(2) 緑をつくる	46
(コラム) 「横浜市水と緑の基本計画」・「横浜みどりアップ計画 (新規・拡充施策)」	47
(3) 市民推進会議・広報	47
(コラム) 平成 23 年度のフォーラム実施状況を紹介	48
(4) 水循環の取組	48
(5) 多自然川づくりの取組	49
(コラム) 「横浜市下水道事業『中期経営計画 2011』」	49
■ 食と農 ～“食”と“農”との連携による横浜型農業の新たな展開～	50
(1) 農地の保全	51
(2) 食と農との連携	52
(コラム) 食育推進計画	52
(コラム) はまふうどコンシェルジュ	53
(コラム) はま菜ちゃん料理コンクール	53
(コラム) 地産地消新ビジネスモデル支援事業	53
■ 資源循環 ～循環型社会の構築～	54
(1) 一般廃棄物に関する取組	54
(コラム) ヨコハマ 3 R 夢プラン	56
(2) 産業廃棄物に関する取組	57
(コラム) 「第 6 次横浜市産業廃棄物処理指導計画」	57
(コラム) 産業廃棄物処理業者の優良認定制度	59
■ 生活環境 ～安全で安心・快適な生活環境の保全～	60
(1) 大気環境の保全	60
(コラム) 公害健康被害者の救済保護、健康被害を予防するための環境保健事業	63
(2) 水環境の保全	64
(3) 地盤環境の保全	69
(4) 化学物質対策の推進	70
(5) 騒音・振動対策の推進	73
(6) ヒートアイランド対策の推進	75
(コラム) 公害苦情の状況	77

第 3 章 区役所の環境施策 78

資 料

環境用語集	96
環境年表	100
平成 22 年度までを計画期間とした「横浜市環境管理計画 (改訂版)」の 主要な目標の達成状況 (概要)	106

本書について

「横浜の環境」は、「横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例」第20条に基づき、「横浜市環境管理計画」に掲げた施策・事業の進捗状況をまとめ、毎年、年次報告書として公表しているものです。

「横浜の環境」は、次の方法により公表しています。

- 横浜市環境創造局ホームページにて全文 (PDF形式) をダウンロードできます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/etc/jyorei/keikaku/kanri/>

- 市立図書館、区役所、市役所市民情報センター等で閲覧できます。

- 市役所市民情報センターで購入 (1冊 ¥1,000円) できます。

販売場所：横浜市役所 市庁舎 1F 市民情報センター

なお、平成23年版「横浜の環境」は、横浜市の環境施策について説明した**本編** (本書) と、環境関連のデータをまとめた別冊の**資料編**で構成されます。また、本編と資料編の概要をまとめた**リーフレット**を発行しています。

本編の見方

本編は「はじめに」、「第1章 総合的な視点による基本政策」、「第2章 環境側面からの基本施策」、「第3章 区役所の環境施策」で構成されています。

第1章「総合的な視点による基本政策」・第2章「環境側面からの基本施策」

新たな「横浜市環境管理計画」の体系に基づき、第1章では、「総合的な視点による基本政策」、第2章では「環境側面からの基本施策」の取組状況をまとめています。

第2章 環境側面からの基本施策

生物多様性 ~身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし~

① **総合評価**

平成22年度は、生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) の関連会議として名古屋で開催された「生物多様性国際自治体会議」に林市長が参加し、本市の取組を発信するとともに、「ヨコハマプラン (生物多様性横浜行動計画)」の策定を進めるなど、全国の大都市の先駆けとなる先進的な取組を進めました。また、「新たな計画」では、「生物多様性」を重点的に取り組む分野として位置づけました。「ヨコハマプラン」の具体的な展開には様々な課題がありますが、今後は、重点アピールを中心に強力に推進します。

② **2025 (平成 37) 年度までの環境目標**

- 誰もが生活の中で自然や生き物に親しむライフスタイルを実践しています。
- 生き物の重要な生息・生育地である樹林地や農地が安定的に保全されるとともに、住宅地や都心部で豊かな水・みどり環境が増え、生き物のつながりが強まり、市域全体で生物多様性が豊かになっています。
- 企業の流通過程において、材料調達から生産工程、消費行動にわたって、生物多様性への配慮の視点が盛り込まれ、生物多様性が市場価値として大きな役割を有しています。
- 市民・企業の主体的行動が支える豊かな生物多様性が横浜の都市のイメージとして定着しています。

(達成状況の目安となる環境の状況)

- ・生物多様性の重要性を理解し行動を実践している市民の増加
- ・貴重な動植物などの生息・生育地などの保全の推進
- ・生物多様性の取組を進める企業の増加

③ **2013 (平成 25) 年度までの取組方針**

- ・生物多様性に関わる施策は広範囲に渡りますが、展開に当たっては、子どもたちが「生き物に触れ、感性を豊かにする」ことには重点を置きます。
- ・そのため、「b-プロモーション」をはじめとして、鳥類を活用した各地域の生物多様性の評価や市民参加等による生き物調査、谷戸環境の保全と活用、生物多様性の宝庫である「つながりの森」「つながりの海 (まちづくりと連携した海づくり)」の取組、地区の特性に応じた取組の検討などを重点的に推進します。

④ **評価**

⑤ **現状とデータ**

生物多様性という言葉を知っているという回答は次第に増えており、平成23年9月に実施した「環境に関する市民意識調査」では「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計が、53.4%と、はじめて5割を超えました。また、生物多様性の危機を身近な問題と意識している回答も6割を超えており、生物多様性の保全に対する意識が高まってきています。

図5 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性 ~身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし~

⑥ **2010 (平成 22) 年度の主な取組実績**

ヨコハマプラン (コラム参照) が平成23年度からスタートしたことから、生物多様性の取組実績は平成23年度のもので中心となっています。

(1) **b-プロモーション**

横浜いきもの応援団の結成

平成23年度は、出前講座等の講師として生物多様性の大切さを伝える「b-サポーターズ (横浜いきもの応援団)」の募集を行いました。

生物多様性に配慮した消費行動

平成23年度は、環境に優しい消費行動を推進する市民団体に対して「生物多様性」に関する出前講座を実施しました。

また、生物多様性の普及・啓発リーフレット「はじめよう豊かな暮らし」(平成23年4月発行)で、地産地消のPRを行いました。

◆「生物多様性でYES!」はp.19に掲載しています。

なお、出前講座の講師として必要なスキルを学ぶための研修を随時実施しています。

(2) **鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク**

A 鳥類の生き物探検

平成23年度から、市民が自然に親しんでもらうため、身近な生き物である「鳥類」を指定し、種類や生息場所・生息数などの結果をホームページに掲載し、市民と一緒に作り上げていく調査を実施します。

B 生き物調査データの一元化 (データベース化) と活用

平成23年度から、市民や企業の生物調査データ、県や各種団体の持つデータ、横浜市の水域調

⑦ **コラム**

「生物多様性横浜行動計画 (ヨコハマプラン)」を策定しました。

横浜では、平成23年4月に「生物多様性横浜行動計画 (ヨコハマプラン)」を策定しました。2025 (平成37) 年の将来像として、「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」を掲げ、重点的に進めたい施策を「6つの重点アピール」として取り組んでいきます。

- ・**b-プロモーション**
「子どもを主役」に「まずは身近な自然を大切に、楽しむ」「生活の一部として取り組む」という視点を重視し、戦略的にプロモーションを進めます。
- ・**鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク**
市民にとって身近な「鳥類」を市民参加で調査することにより、地域の自然環境への理解を深めます。また、市民団体や企業と連携して、生物の生息・生育状況のデータベース化を進めます。
- ・**「谷戸」環境の保全と活用**
横浜における里山の特徴的な地形である「谷戸」の、豊かな生き物とその歴史、文化、景観に着目し、現代社会における新たな「谷戸」の価値の創造に取り組めます。
- ・**つながりの森**
市南部に位置する市内最大の緑地であり生物多様性の宝庫といえる円海山の周辺を「つながりの森」と位置づけ、次世代を担う子どもたちの体験フィールドとして、市民全体で守り育てる取組を進めます。
- ・**つながりの海 (まちづくりと連携した海づくり)**
市民が楽しめる、生き物豊かな「美しい横浜湾」を目指し、浅海域に着目した取組を市内3地区で進めます。
- ・**生物多様性を守り、豊かにするためのしくみづくり**
地区に即した生物多様性の取組を進めるため、地区設定の考え方を示すなど、土地利用制度を積極的に活用するためのしくみづくりの検討を進めます。

① 総合評価

施策の柱ごとに平成22年度の主な取組実績や個々の評価を総括し、市としての自己評価を文章で記載しています。あわせて、今後の取組方針を記載しています。

② 2025（平成37）年度までの環境目標

新たな「横浜市環境管理計画」で設定した柱ごとの環境目標を記載しています。

③ 2013（平成25）年度までの取組方針

新たな「横浜市環境管理計画」に示す「2013年度までの取組方針」を記載しています。

④ 評価（取組方針ごとの評価）

主な取組の平成22年度取組実績や個々の施策の評価を総括し、各取組方針に対する市としての自己評価を「◎」、「○」、「×」、「－」の記号で記載しています。

評価記号	評価基準
◎	年度当初の予定を上回る成果が得られた
○	年度当初の予定通りの成果が得られた
×	年度当初の予定を達成できなかった
－	平成23年度から取組を開始する新規事業のため評価なし

⑤ 現状とデータ

関連データ及び市民意識調査の結果を記載しています。

⑥ 2010（平成22）年度の主な取組実績

主な取組について、2010（平成22）年度の実績を記載しています。数値目標が設定されている項目については、2010（平成22）年度末の状況を記載しています。また、必要に応じて、2011（平成23）年度の取組状況を記載しています。

なお、新たな「横浜市環境管理計画」で【再掲（P●参照）】としている取組は、メインとなる箇所（P●の箇所）で取組を記載しています。

⑦ コラム

横浜市が平成22年度に取り組んできた施策や現在進めている施策等をクローズアップし、コラムとして紹介しています。

第3章 区役所の環境施策

18区役所の環境に関する主な取組をまとめています。なお、1区1ゼロカーボンプロジェクトについては、色で囲っています。1区1ゼロカーボンプロジェクトとは、地域における温暖化対策の取組を推進するため、地球温暖化対策に関する普及啓発講座の実施や環境家計簿普及の取組、省エネ器具の導入促進など、市民の温暖化対策につながる行動を促進する取組であり、各区にて実施しています。

【参考】「環境に関する市民意識調査」について

本書中の「環境に関する市民意識調査」は、平成23年9月に実施したアンケート調査結果を示しています。

平成23年度調査の概要

・目的

今後の環境分野の市政運営や政策立案の基礎資料として活用するため、市民の環境に関する意識や市政に対する満足度、要望等を把握することを目的としています。

・調査方法

インターネット調査（登録モニターによるWEB調査）により実施しました。

「平成21年中の人口動態と平成22年1月1日現在の年齢別人口」より、人口構成比に基づき、性別・年代別に割付け、横浜市在住の20歳以上の合計1,000人から回答を得ました。

・調査期間：平成23年9月16日（金）～9月26日（月）

・調査項目：34項目について調査を実施しました。

調査結果

全項目の調査結果は、横浜市ホームページ（<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/chousa/>）で公表しています。なお、別冊の資料編に結果概要を掲載しています。